

令和元年度第4回亀岡市総合計画審議会策定部会 議事要旨録

日 時：令和2年3月6日（金） 午前10時～12時05分

場 所：亀岡市役所 6階602・603会議室

出席者：鈴木康久部会長、川勝啓史副部会長、青山公三委員、大石慶明委員、楠善夫委員、坂本信雄委員、多胡麻衣委員、三宅基子委員、山口みどり委員

欠席者：岸耕二委員、内藤登世一委員

- 次 第：1. 開 会
2. 議 事
（1）基本構想（素案）について
3. そ の 他
4. 閉 会

1. 開 会

事務局

- ・進行を部会長にお願いします。

2. 議 事

（1）基本構想（素案）について

部会長

- ・次第に沿って進行する。まず、第5次亀岡市総合計画基本構想（素案）第1部第3章「亀岡市のまちづくりの今」まで、事務局から説明をお願いします。

事務局

—資料No.1（冒頭から8ページまで）に基づき事務局説明—

部会長

- ・第3回亀岡市総合計画審議会策定部会の議論において、骨子については概ね良いとなったため、それらに合わせて、事務局にて書き込みがされた素案である。
- ・今後の進め方についてであるが、資料No.1の内容と本日の部会の内容について、各部局に意見照会、内容の確認をすると聞いている。資料No.1は「たたき台」という位置づけである。各委員からのご意見を加え、当該資料がより良いものになればよいと思っている。亀岡市全体のイメージを高めていくという思いをもって、いろいろなご意見がほしい。
- ・資料No.1の内容は量が多いことはもとより、重要な内容である。一度に議論をするのは難しいため、資料No.1は2つに分けて説明する。特に人口については、様々な意見があろうと思うが、後半に議論できればと思う。今説明のあった、第1部第1章から第3章までについて、質問は

ないか。

(質問、特になし)

部会長

- ・第1部第1章「第5次総合計画」について何か意見はないか。こちらは総合計画の目的を示す箇所になり、重要なものかと思うが、なにかあるか。

A委員

- ・第2章とも関連するが、第5次総合計画の目的の中で、定住人口・交流人口の拡大が示されている。
- ・ニューヨークから15 kmほど北西に進むと、ラドバーンという1920年代に開発されたニュータウンがある。日本のニュータウンは他都市よりも高齢化が進みやすい状況であり、学校を作っていたとしても、統廃合の必要が生じている。一方で、ラドバーンでは、そこで育った人が一度外に出ても結婚のタイミングなどで戻ってきており、学校も成り立っている。ラドバーンで育った人がラドバーンに戻ってきたいという気持ちを持っており、学校で子どもがたくさん遊んでいる姿を見ることができる。
- ・その理由の1つは、住宅の種類をライフステージに応じて整備している点である。賃貸住宅はもとより、若い夫婦向け住宅や戸建て、二世帯住宅など、多様な住宅が用意されている。
- ・日本の総合計画において、定住人口は、合計特殊出生率について言及されることはあるが、社会動態について言及されていないように思う。社会動態で、年齢5歳階級のコーホートで推計し、進学や就職でそのまま戻ってこないというパターンに言及して終わりではなく、そこから若い人たちが亀岡に戻ってきたくなる政策まで言及してもいいのではないか。
- ・亀岡の現状として、戸建ての住宅は多くあると思う。例えば、駅周辺に安くて良い賃貸住宅が用意されていれば、亀岡市で子供が駅近くのマンションに住み、京都市内で働くといった話になり得るのではないか。働く場が近くにあるので、そういったまちづくりの方向性があるのかなと思う。
- ・住宅開発について、第1章に記載は難しいかと思うが、多様なライフステージに応じた、住み替えができるまちに亀岡はなっていないと思う。子育て世代、高齢者や二世帯住宅など、ライフステージに応じたまちづくりをするとよいのではないか。

部会長

- ・第1章「1. 計画の目的」の中に特徴的な言葉がないことによるご指摘と思う。亀岡で育った人が戻って来る、ホテルやコワーキングスペースだけではなくライフシェアやライフステージに応じた、色々な方々が亀岡に来られるといった方向性はどうか、というご意見と思う。
- ・「計画の目的」は重要な項目である。他に意見はいかがか。

B委員

- ・「計画の目的」の中に、大事なキーワードを入れていく必要があると思う。その1つが、これまでの議論に出てきたように、「にぎわいのあるまち」が入ってくると思う。住民がわくわくし、ここに住みたいというキーワードが必要である。総合計画を読んだときに、亀岡がこういうまちになるのであれば戻りたい、住みたいと思ってもらえるようにすることが重要である。
- ・4段落目に将来についての言及があり、4行目に「ビジョンを共有し、市が一丸となってその実現に向け取組んでいくことが求められます。」と記載があるものの、抽象的であるため、このように亀岡が変わるのであればわくわくできる、そういったキーワードがあれば良いのではないか。

部会長

- ・4段落目において、時代の潮流やあるべき姿が具体的に記載されていない状況である。こちらに、A委員の意見を踏まえて記載されると、具体的な記述になると思う。
- ・その他にもこういったものが入ったほうが良いというものがあればご意見いただきたい。

C委員

- ・定住人口を増やすことになるのかどうか、まだ先が見えていないが、せっかく亀岡市内にスタジアムができたところである。こちらは京都サンガのホームグラウンドではあるが、練習場や宿舍などは城陽市にある状況である。選手や監督、その家族も亀岡に住んでもらい、亀岡の良さを全国に発信してもらうのは取組として面白いのではないか。そういった点も盛り込んでいただければと思う。

部会長

- ・他に意見はないか。

D委員

- ・今は第1部第1章の話でよろしいか。

部会長

- ・今議論している第1部第1章は、第3部の重点テーマのキーワードとも関連してくると思う。また、これらのキーワードをまとめた言葉も入ってくるように思うが、現状の議論だけではまとめにくいところもあると思うので、D委員が再確認された話も受け、第2章「亀岡市を取り巻く社会経済の潮流」以降について議論し、再度ここに戻ってきたいと思う。

D委員

- ・第2章に限らないが、なるべく図表やビジュアル、根拠を入れていく必要があると思う。直感

的にアピールできるものが大事かと思う。

部会長

- ・わかりやすさと正しさを証明できるような記述の方向性について、意見をいただいた。

D委員

- ・例えばだが、第2章「2. 地域に波及する人・モノ・情報の国際化」において、国際化や多文化共生についての文章がある中、亀岡市内に居住する外国人の数字が入っていない。過去のデータもあり、今後増えていくシナリオは想定できると思う。

部会長

- ・第2章「2. 地域に波及する人・モノ・情報の国際化」について検討を願う。
- ・潮流も総合計画において重要である。A委員が社会動態について言及されていたが、第2章「1. 少子化・高齢化と人口減少」に入っていないといけない。例えば、大津市は人口が増えているが京都市から同じ距離感である亀岡市は人口が増えていないとするならば、そのような中で頑張っていく方向性を記載するなど、第2章の潮流においても尖がらせる必要もあると思う。

E委員

- ・潮流と併せて、リソースについても言及してはどうか。社会環境に合わせて、亀岡市の構造は変わるべきである。吹田市は万博で大規模開発を進めてきたが、近年、高齢化に伴い見直してにぎわいを取り戻している。リソースは大事だと思う。臨機応変に活用して、持続可能な社会実現の方向へ持っていくことが重要だと思う。

部会長

- ・これまでの資源を時代に合わせてリユースする視点について意見をいただいた。例えば、空き家住宅や公民館の活用も含まれてくると思う。

B委員

- ・それぞれの情報について、図表があるとわかりやすいと思う。亀岡市の人口の減少についても、文章だけの記載より図表があればどう減るかもわかる。
- ・第2章「2. 地域に波及する人・モノ・情報の国際化」において、亀岡市の観光資源について触れている中で、三大観光について記載されている。観光資源になり得るものはまだあるとこれまでの議論にあった。今後10年の中で、観光資源となる可能性のあるものを入れていく必要があると思う。
- ・5ページ「4. 常態化する自然災害リスク」の記載の中で、自助・共助の重要性について触れら

れている。京都府下の中でも亀岡市は、民生委員が定数に近い人数を確保できており、充実している。民生委員や児童委員など、多くの市民が活動されており、特に災害時にはそのような方々の活躍が求められるので、そういう視点も盛り込まれてはどうか。

A委員

- ・ 言い出すとキリがないものではあるが、いくつか述べさせていただく。
- ・ 5 ページ「3. 情報通信技術の進化と普及」における「情報通信技術」というのが今どきの言葉ではないように思える。AI や Society5.0 についての記述があるが、Society5.0 については情報通信技術では括れないものが含まれていると思う。対案を出せと言われるとうまく出せないが、例えば、通信をやめて「情報コミュニケーション技術」や AI の要素を盛り込むなど他にもあると思う。英語で通信は、テレコミュニケーションとして通常使われる。
- ・ 「3. 情報通信技術の進化と普及」の記載内容はこのような感じと思うが、市における取組がたったの 2 行なのは寂しい。例えば亀岡のスタジアムでは、情報技術のスクリーンを備えていると聞いていたので、それらを活用など、考え方を記載してはどうか。
- ・ 6 ページ「5. 地球環境問題の深刻化」の中で、SDGs の動きが 1 段落目に記載されているが、これは普通の人を読むと、その後の話が SDGs にどう接続するか全くわからないのではないか。龍谷大学大学院の授業で、伏見区の今後の SDGs の展開について報告会を実施した。そのときに、企業班と子ども班の 2 つに分けたが、企業班では、地元企業の企業活動自体が SDGs につながっているということを示した。また、子ども班では、日常的に子ども達がごはんを残さずに食べる、物を大事にする、そういうことを SDGs 宣言として書いてもらい、SDGs が身近になったと感じた。
- ・ 第 1 段落以降に、亀岡にある企業や団体、地域の取り組みが SDGs につながっているということが示されるとよいのではないか。それらに加え、記載されている環境計画も SDGs につながり、あらゆる活動が SDGs につながることを、ここで示すことはできないか。この記載だと SDGs が雲の上にあるように思うので、もう少し地におろしてもいいのではないか。

部会長

- ・ すべてを書き込むのは難しいと思うが、ご指摘は SDGs についての表現の問題かと思う。事業展開の中で SDGs が出てくるのかもしれない。
- ・ C 委員からの指摘にも一部重なってくると思うが、スタジアムに関する記載が第 2 章には無いように思う。
- ・ 1 人ずつご意見を伺っても良いか。私から 2 つ。まずは国際化に関してだが、森の京都など、他団体と連携して取り組んでいる事柄も入れて良いのではないか。自然というキーワードは“わくわく感”とも重なってくると思う。また、アンケート結果でも自然の豊かさが定住意向につながっていたかと思うので、自然で選ばれる亀岡という視点もお願いしたい。
- ・ 2 点目は災害リスクについてである。グリーンインフラという考え方があるので、紹介させて

いただきたい。数年前、嵐山が水に浸かり保津川周辺でも深刻な被害が出た。亀岡においても大変ではあったが、昔から人が住んでいる場所は浸かっている。すなわち、亀岡においてグリーンインフラが実現できていた。先人の知恵で災害が少なくできるという旨を入れても良いと思う。

F委員

- ・夫が農業に携わっているが、亀岡では若い方が農業、野菜作りに力を入れている情報がよく入ってくる。都会から田舎に来て農業に関わるという話もテレビでも見る。亀岡は京野菜の大部分を担っている地域でもあり、農業は亀岡ならではの1つである。若い人が入りやすい状況を作っただけでないか。都会から亀岡に来て、農業したい人が土に触れ、子育てして暮らしていくという方向でアプローチするなど、敷居を低くして、亀岡なら実現できるという話にもっていけないか。

部会長

- ・6ページ「6. 産業を巡る環境変化」では、米や野菜についての記述や、京野菜の一大産地であることが示されているが、亀岡の特性として、若い農業者が多いのであれば、図表を入れるなどを検討いただければと思う。詳細は基本計画に記載することになると思うが、総合計画を見た人が、亀岡で農業をしてみようかなと思える仕組みづくりが出来たら良いだろう。

G委員

- ・5ページ「常態化する自然災害のリスク」についてだが、川や山があるため自然災害のリスクがあるのは致し方ないと思う。ハード面について、記載はされているが、避難した後の長い生活をどうしていくのか。阪神大震災や東日本大震災を経験した中で、避難所の問題がでてきている。避難所の運営など男性が中心になると、運営に携われない女性や障がい者、子どもの意見が反映されず、ストレスがかかるという話も聞いている。
- ・災害を防ぐ視点もちろん必要であるが、災害が起こった後の長い避難生活を少しでも快適に暮らせるようにするためにはどうしたらよいか、これらは男女共同参画の視点も必要であり、取り入れてほしいと思う。
- ・5ページ「3. 情報通信技術の進化と普及」について、その通りだと思っていた。しかし、“新たな時代に必要となる人材育成”と記述があるが、どのくらいの世代の方を育成するのかわかった。子どもたちの学校教育の中に入れていく方が良いのではないか。学校教育の現場でITの取組を進め、亀岡の子どもはITに特化した教育を受けている、といったことができればよいのではないか。
- ・環境先進都市を目指す中で、今もしていると思うが、教育面からも触れて良いのではないか。教育はとても大事であるので、この分野の教育に力を入れているということを示すことができればよいと思う。

- ・3 ページ「少子化・高齢化と人口減少」などにおいて、合計特殊出生率についての記述があるが、女性が子どもを産むのは、男性がいて初めてできることなので、「1 人の女性が生涯に産む子どもの平均人数」という表現では、女性に対して一方的に触れているように感じる。

部会長

- ・少子化・高齢化についてのご指摘に対する表現をどうするのか、難しいと思うが、興味深い視点だと思う。
- ・情報通信技術において、どのような人材育成なのか、書き込む必要がある。G 委員からの子ども向けという視点は面白いと思う。また、環境においても人材育成の視点があってもよいというご指摘かと思う。
- ・避難所についての話を基本構想内に書くのは難しいかもしれないが、どの性別でも過ごしやすい、不自由が少なくなるような避難所運営が求められているところである。

D 委員

- ・エビデンスが重要である。イラストも含め、図表を入れていただくことを強調したい。
- ・目次を再度見てほしい、委員も整理して発言する必要があると思うが、先の議論は第 1 部第 2 章や第 3 部重点テーマにも関わり、以降の施策の大綱にも関わってくる。どの部分でどれを強調するか、委員としても把握しておく必要があるのではないかと思う。

部会長

- ・ご指摘のとおりである。意見を踏まえ、事務局でも整理していく方向だと思う。政策だけのことを伝えるのは難しいため、このような形で進めていきたいと思う。

C 委員

- ・三大観光以外で特に力を入れているのは、スポーツ観光である。スタジアムにはボルダリングの施設がある。ラフティングの会社も 5~6 社あり、山にはパラグライダーがあるなど、自然を生かしたスポーツが多岐にわたる。今年オリンピック・パラリンピックがあり、来年はワールドマスターズゲームズがある。2025 年の大阪・関西万博まで誘客を促したい。そうすると、一つの経済効果が出てくると思う。

部会長

- ・スポーツ観光の視点でご意見いただいた。経済効果、というお話であったので、6 ページの「6. 産業を巡る環境変化」に入ってくるか、もしくは、関係人口であれば、人口の項目に入ってくる可能性もあると思う。

E 委員

- ・観光について、自然環境を活用する視点は重要。それによって人を呼び込むことを亀岡の特色としていければと思う。
- ・亀岡はソフト面についても、魅力的なまちであると思う。登下校中に見守りも実施しており、地域で見守っている、安心なまちといった魅力もある。

部会長

- ・どこに書き込んでいくか、調整が必要であるが、7ページ第1部第3章「亀岡市のまちづくりの今」において、セーフコミュニティも入れていく必要があると思う。
- ・人のネットワークで人を幸せにするという方向や自然を生かした環境であるというのは重要な視点と言えるのではないか。

A委員

- ・G委員から指摘のあった避難所についてだが、これからの危機管理において重要なことは、(1)発生直後の対応、(2)復興、(3)次の災害に備える減災、(4)災害に対する準備の4つの段階がある。5ページ「4. 常態化する自然災害リスク」においては、リスク、減災、準備は言及されている。今後、計画で記載があると思うが、直後の対応や避難所の問題、NPOにどのように入ってもらえるか。重要如何に関わらず、そういう視点はほぼ無い。
- ・アメリカ赤十字がNPOを傘下に入れている。避難所対応は赤十字に任されており、男女共同参画の考え方とともに、様々な国の人の対応や障がい者の対応など集まったNPOの得意分野をもって対応を進めるが、日本では疎かにされている。
- ・潮流に書くのであれば、基本構想という位置付けではあるが、災害発生直後の体制や、NPOと事前に連携体制を作っておく視点もあって良いのではないか。4つの段階で捉えると可能だと思う。現状は段階が混ざっている。
- ・なお、4つの段階は、クリントン大統領の時にアメリカの災害・危機対応を4つの段階で捉えるものとして、今に続いている。

部会長

- ・全部の記載は無理でも、分けて書くなどの工夫をいただければと思う。

副部会長

- ・亀岡市は昼間人口が8割半ばである中、ベッドタウンを基本としたまちづくりで今後10年やっつけていけるのか。10万人に近い人口規模の中で、高規格道路が無いのは見たことがない。公共交通の問題や、昼間に人がいないからなのかは分からないが、他の10万都市と比べて公共交通が少ないと感じており、今後、ベッドタウンとして亀岡市が生きていけるのかどうかによっても、今後の対応も変わってくるのではないか。

部会長

- ・3 ページ「1. 少子化・高齢化と人口減少」の項目に、ベッドタウンに関する記載を検討してほしい。また、施策や事業については、先ほどA委員から意見があったライフステージに応じた住宅の提供などが関わってくるのではないかと思う。

D委員

- ・亀岡市の計画に関わらず、どこの総合計画でもそうだが、財政に触れられていない。行政では公債費比率や財政収支の見通しなど、代表的な数値がある。住民が増えないと住民税は増えない。他方、国からの地方交付税が出ることで自治体が保たれていたが、ご存じのとおり日本はイタリアよりも酷い赤字国家である。人口減少に伴って住民税が減るのは目に見えており、地方交付税に依存しない自治体経営を目指す必要があるのではないか。そのため、財政についても総合計画において触れる時期が来たのではないかと思う。
- ・これまでは国が面倒をみてきたが、これからは自前でやらないといけないということを、市民に財政について伝えていくことも重要ではないか。

部会長

- ・全体の目次立てにも関わってくると思う。ご指摘の点について、今は難しいと思うが、計画の実行にあたっての予算との兼ね合いや、どうやって財源を確保していくかの記載も重要になると思う。
- ・第1部第2章について、出た意見をまとめる。
- ・「1. 少子化・高齢化と人口減少」では、社会動態やベッドタウンについての言及を求める意見をいただいた。また、選ばれる亀岡である必要性についてもあったと思う。
- ・「2. 地域に波及する人・モノ・情報の国際化」については、三大観光とともに、亀岡の豊かな自然に関する記述が重要である。一方で、観光を書き込むのはここでよいのか整理が必要である可能性がある。
- ・「3. 情報通信技術の進化と普及」については、「機械」という概念だけではなく、「ヒト」の概念が読み取れるような言葉が必要である。
- ・「4. 常態化する自然災害リスク」には、危機対応についての4つの段階や、避難所における対応について、追加を検討願う。
- ・「5. 地球環境問題の深刻化」については、教育との兼ね合いについての意見を賜った。
- ・「6. 産業を巡る環境変化」には、スポーツ観光や農業について厚く記載願う。
- ・いずれにしても、B委員のおっしゃる“わくわく感”や、亀岡の凄さがうかがえる言葉が入っているとよいだろう。現状では普通の言葉が入りすぎている。環境問題の箇所では、プラゴミやアユモドキといった亀岡らしさがあるが、それ以外の箇所においても加えてほしいと思う。
- ・引き続き7～8ページの第1部第3章「亀岡市のまちづくりの今」について、意見をいただければと思う。

- ・セーフコミュニティや子育て、高規格道路についての言及もあると思うが、ここで市民へ今伝えるものは、どのようなものがあるか。
- ・この項目はこれまでの意見が重なって入ってくることもある。今とこれからについて記載があると思うが、亀岡の“かっこ良さ”や“わくわく感”を分かりやすく伝えられればと思う。例えば、絵が入ってくると分かりやすくなる。
- ・今日の会議は12時までがリミットなので、残りを事務局より説明いただき、あとを含めて議論できればと思う。

事務局

—資料No.1（9ページ以降）に基づき事務局説明—

部会長

- ・説明をいただいたが、こちらも盛りだくさんの中身である。
- ・まずは9ページ第4章「亀岡市の人口の見通し」の項目から意見をいただきたい。

D委員

- ・9ページ下段にある「亀岡市社人研推計」という表現は正しくないのではないかと。国立社会保障・人口問題研究所における亀岡市の数値であるため、表記に注意してほしい。
- ・重ねて「亀岡市人口シミュレーション」において、2040年における合計特殊出生率が2.07は、さすがに問題ではないか。国ですら1.8が目標である。達成の見通しはないのではないかと。こういうところから計画の信頼性の問題が出てくるため、やめるべきだと思う。上昇するとしても、国の目標である1.8ではないか。
- ・私の方で数字を計算してきたので、それに基づいて説明したい。

—事務局より、D委員提供資料が委員へ配布される—

- ・亀岡市の定住・交流・関係人口の推計が議論のテーマと思う。定住人口は独自試算があっても良いと思うが社人研推計のデータ推移が最も説得力があると思う。
- ・定住人口は、減っていくことが推計されるが、減っていくことでマイナスイメージも持たせるだけではなく、交流人口・関係人口が増えていくといったことも示すのが今回の総合計画の大きな狙いであると思っている。
- ・そのような中で、交流人口・関係人口をどのように想定するかである。まず、交流人口の定義は、亀岡市を訪れる人のことであり、何を取り入れていくかがポイントとなる。交流人口は、292万人から2030年に400万人を超えるとみている。今年どうなるかが肝であるが、嵯峨野観光鉄道の総務部長の話を受け2割減と考えている。また、新京都丹波ビジョンにおいて、南丹地域において、管内観光入込客数の数値目標が5年で1.43倍とされている。これを単年で

1.08として、それを積み上げる。残りの期間は、実質GDPの伸び率である1.01を取り入れている。

- ・定住人口は、所得要因や行政サービスが影響し、特に所得の高さがどう伸びるかが人口移動を活発にする決め手であると前回説明させていただいた。それを踏まえて、1.01としている。私の勝手な想定というよりは、いくつかのシンクタンクで想定していることを背景に捉えているものである。
- ・関係人口は、総務省や国土交通省においても、移住相談や空き家相談、寄付者の合計等として捉えている。13,000人から21,000人で推計している。
- ・社人研の推計どおりになるとは思わないものの、定住人口の減少は暗いニュースになりがちなので、明るさを伝えるのであれば、交流人口や関係人口も市民に伝えるべきではないかと思う。

部会長

- ・10ページ図表3では平成30年までの数字となっていたが、最新の数字を紹介いただいた。

A委員

- ・合計特殊出生率の2.07に対する意見は賛成である。その上で人口をどう考えるかがポイントである。社会動態が重要であり、それが振れるだけで人口は大きく変わってくる。
- ・重点テーマの1について、「ここに帰ってきたい」という要素も入れられないか。アメリカの話もしたが、今の人が住み続けるだけでは高齢化していく。千里ニュータウンも高齢化率が30数%、和泉ニュータウンも同様である。
- ・副部会長からベッドタウンについて投げかけがあった。私は、ベッドタウンであっても、ライフステージに応じた住み替えができるまちであれば、良いと思う。現実には、売り出す際に売れる世代をターゲットにしてしまいがちである。帰ってきたいという要素を社会動態と見込んで人口を設定したほうが、説得力があるのではないか。社人研の推計も科学的根拠がないわけではないが、改めて見ると合計特殊出生率を2.07にするのは、これからのまちづくりでは無くて良いのではないかと思う。
- ・土地利用において、自然環境と農業に関して非常に重要であると思ったが、7~8ページ「亀岡市のまちづくりの今」では自然環境や農業に関してあまり入っていないので、項目を増やし、書き込んでもよいのではないか。
- ・工業についてだが、現在日本で出来ているのは生き残れているからであり、それを評価することも重要ではないか。
- ・自然環境、農業についてだが、重点テーマ3で自然環境は言及されていたが、重点で農業を抜いてしまって良いのか。衰退する産業だからいいという整理ではなく、亀岡の性格を打ち出すものであれば、もう一個増やしてもいいのではないか。検討願う。

部会長

- ・人口推計の合計特殊出生率 2.07 について、国が使っているというのが背景にあるため使用していると思うが、合計特殊出生率 1.8 での推計等はあるだろうか。
- ・国が行っている亀岡市の推計は、社会動態がどのような数値で、何年にいくつ、というものがあれば、わかるように記載願う。

E委員

- ・農業の話が出たが、各自治体をみると、市街化調整区域が人口減少に非常に影響していると思う。参考資料 2 において紹介された町以外でもどう取り組んでいくかを捉えていくことがポイントだと思う。
- ・農業政策について重点テーマで記載が無いとあったが、重点テーマ 2 の中で、そういう点も入れていただければありがたい。
- ・18 ページ、交流とふれあいのゾーンの 1 部に市街化調整区域や、ほ場整備もしているところもあるため、そういう点の記載についても検討願えればと思う。

B委員

- ・農業について、10 ページの交流人口や関係人口の項目に若い農業者をどう取り込んでいくのかも言及して良いのではないか。
- ・17 ページの「ゾーン別地域振興の方向」の中で、今までの議論に出てきた、スポーツ観光の資源はどこに入るのか。交流や観光・レクリエーション機能の向上などは記載されているが、スタジアムを中心としたスポーツ・レクリエーション機能について触れられてはどうか。
- ・19 ページの重点テーマ 2 では「スポーツ、歴史・文化、観光」という表記である。スポーツ庁も多様な楽しみ方という意味合いで「スポーツ・レクリエーション」としていることに加え、ゾーン別振興の方向においては「観光・レクリエーション」という表記になっていることから、重点テーマ 2 においてもレクリエーションを加えるのはどうか。いろいろな楽しみ方で、多様な人を取り込んでいけるのではないかと思う。また、これらはゾーン別地域振興のどこにはいるのかと思った。

部会長

- ・ご指摘の点は「にぎわいと街のゾーン」への記載かと思う。現状では書き切れていない。10 年前と比較して、状況は大きく変わってきていると思う。

C委員

- ・農業や商工業をはじめ、産業にも触れていただきたい。

D委員

- ・全体として産業が少ない印象を受ける。

部会長

- ・その点について検討願う。京都市近郊であることから、和菓子屋など、都市型の産業が亀岡市にもあると思う。日本電産などもキーワードになると思う。亀岡らしい産業誘致について記載を進めていただければと思う。

G委員

- ・私の考え方だが、重点テーマ1について、亀岡で生まれて住み続けてもらうより、一回外に出て、戻ってきてもらう、もしくは外から来てもらうのが良いと思う。兵庫県豊岡市が卒業する際に「行ってらっしゃい、帰ってきてね」といったメッセージを出している話を聞いたが、素敵だと思う。外の空気をたくさん吸って戻ってきてもらいたい。外の空気を亀岡にもってきてもらい、色々な新しい空気を入れたほうが、まちとして発展するのではないかと思う。

部会長

- ・選ばれる、もしくは戻ってきたいまちづくりである。ぜひ検討願う。

F委員

- ・私も同じで帰ってきたいと思ってもらうためには、子育てや農業はもとより商業のにぎわいや、スタジアムができることによる活気が出るのが大事だと思う。現状として駅周辺は寂しい雰囲気であり、楽しい感じのイメージは無い。
- ・商売をされている方でも、2代目や3代目が亀岡で商売したいと思えるようになることも大事である。若い人が亀岡に来て生きていく、みんなが元気で“わくわく感”もあり、応援できるような力強いメッセージを盛り込んでいただければと思う。

副部会長

- ・これらの文章の中に、連携に関する記述は検討できないか。例えば、農商工や産官学、都市間の連携などである。圏域で大きく見た発展が入っていないので、その点もお願いしたい。

部会長

- ・事業の推進にあたっては欠かせない視点である。
- ・今までの議論をまとめる。
- ・9ページ第4章については、この表現では駄目といった意見はなかったため、項目として入れていく。定住人口の目標を示すのか、示さないのかというのはあるが、現状は8万人をベースに記載がされているという認識を持っている。一方で、合計特殊出生率2.07を入れることは正しいのか再考いただきたい。また、わかりやすく、エビデンスがあることが重要である。
- ・10ページについて、D委員からの関係人口や交流人口を重視すべきといった意見に異論は無

いと思う。また、交流人口の目標数値については400万人ほどが示されてあったが、これをどう使っていくかが大事である。同じ推計値を掲載するのか、検討願いたい。今回の計画策定にあたってはコンサルタントが入っていると思うが、D委員がされているような算出手法は全国的に推計されていると思うので、願いたい。

- ・12ページの第2章「土地利用の基本方針」では、キーワードを出し切る必要があると思うが、都市計画マスタープランとの関係も注視する必要があり、整合をとる必要がある。スタジアムに関する記述、自然や農業住宅地の考え方についても入れていただければと思う。同様のことが17ページ「ゾーン別地域振興の方向」にも関わってくるが、このあたりも議論が不十分であった。今回の意見を踏まえ、各部局の意見を受けながら議論ができればと思う。
- ・重点テーマについての議論はほぼできなかった。委員の総意として“わくわく感”がポイントであり、「選ばれる」、「戻ってくる」といった表現とともに、それぞれの時間軸やライフステージで満足できる環境づくりが重要である。これらは「子育てしたい」「住み続けたい」の裏返しでなく、補強できる表現が重要である。うなずいていただいている委員も何人かいらっしゃるが、やはりもう少し議論が必要だと思う。
- ・スポーツを「スポーツ・レクリエーション」という表現に変更することは必須だと思う。
- ・「選ばれるまち」であることが表現されていけばよいと思う。次回は、各部局から上がってきた意見を踏まえて、さらに議論を深めていく形になると思うが、もっとわくわくできる言葉が出てくるのが望ましい。現在亀岡市が行っている、商業などの施策が見える形で入ってくる表現ができればと思う。
- ・時間が経過しているが、これだけは言いたいことがあるという委員があれば願いたい。

(特になし)

部会長

- ・D委員には、貴重なデータを提供いただき感謝申し上げます。それでは進行を事務局に返す。

3. その他

(特になし)

4. 閉会

事務局

- ・検討すべき事項がたくさんある中で、多くの意見をいただいた。
- ・いただいた意見を整理し、市の考え方としてまとめていきたい。
- ・次回は4月であるが、早めに開催したいと思っている。よろしく願います。
- ・それでは以上で終了とさせていただきます。

以上